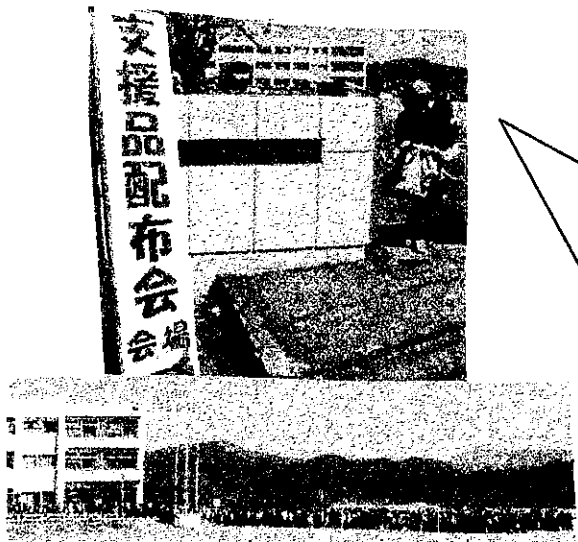


支援物資受付開始しました！

放課後244教室に持って来てね！



全校生が持ってきてほしいもの

ノート1冊と1本の鉛筆と簡易鉛筆削り1個のセット
(1セットでもいいけど、何セットでも歓迎です)

下に書いたものは家にあれば協力して持って来てね

新品：歯ブラシ・ウエットティッシュ（これスーパーで品薄でした）
・生理用品・爪切りや耳かき<新品>髪留め用のゴムやピン<新品>折り紙・お手玉<中古可綺麗なもの>
飴ちゃん<袋入り・賞味期限余裕あるもの>

4月17日午前9時40分

支援物資を受け取るために出来ている長い列

<宮城県気仙沼訪問写真より>

気仙沼被災地・陸前高田被災地レポート その1

被災地の現状は、想像をはるかに超えた。伝えられることばを私は探し続けたが…ない。

1ヶ月が過ぎても…町中ががれきがれきがれきの山。

川には橋がない。ひっくり返った屋根が川の中に突き刺さっている。

がれきを道ばたに寄せて道路が見える所はまだよい。

道路がどこにあって、電柱がどこにあって、建物がどこだったのか全く跡形もない。

「がれき」と「へどろ」の山が、見渡す限り続く。



どんどん増えます！実行委員！
ウレシー！もっと来てね！

J2-2 2-4

H2-1 2-2

毎日放課後244教室で実行委員会
やっています。

都合のよい時間だけの参加OKです。

気仙沼の惨状を報道している連載記事が載っている新聞を、気仙沼在住のみなさんの先輩より頂いてきました。先輩は家も家族も大丈夫でしたが、駅前に駐車していた車が壊滅でした。

記憶 後世へ



雪、われに返り寒さ

守 竜 太 ①

「ああ、ああ。」
 建てて間もないだろ
 う頑丈そうな民家
 や、油槽船が大川を

午後4時過ぎ、雪

「家も車も流された
 だろ。」(昭和35年
 の)チリ津波なんて
 比べものにならない
 い。とんでもないこ
 とになった」と、放
 心状態でがれきの山
 を見つめていた。

性の手は震えてい
 た。
 「こんなの映画や
 ドラマでしか見たご
 どねえ…」と誰かが
 つぶやいた。今いる
 校舎さえ流されてし
 まつのではないか。
 誰もが自然の力に対
 する人間の無力さを
 感じざるを得なかっ
 た。

まることになるだろ
 う」と南気仙沼小の
 職員が切り出した。
 周囲の水がひく気配
 はなく、中央校舎と
 をつなぐ通路も寸断
 された。電気も暖房
 も水もない東校舎
 で、避難した中学生
 から高齢者まで21人
 とともに一夜を過ご
 すことに。家族の安
 否さえ分からない

逆流する光景に、着
 の身着のまま逃げて
 きた住民の声は言葉
 にならない。南気仙
 沼小前にかかる歩道
 橋が、がれきの衝突
 に耐えられずにバリ
 バリ音を立てて折れ
 る。ビデオカメラで
 撮影している中年男

がちらつく。羽織っ
 ていたのは薄手の
 ジャンパー一枚。ダ
 ウンジャケットを積
 んでいた車は流され
 た。ふとわれに返っ
 た瞬間、寒さが襲
 う。対岸では火災が
 発生していた。
 「今夜はここに泊

上、情報も入らず動
 悸がした。
 非常用の毛布は体
 育館にしかないが、
 近づけない。夜の寒
 さに備え、毛布代わ
 りにしよつと男性た
 ちが各教室のカーテ
 ンを外す。市内川口
 町の男性(71)は

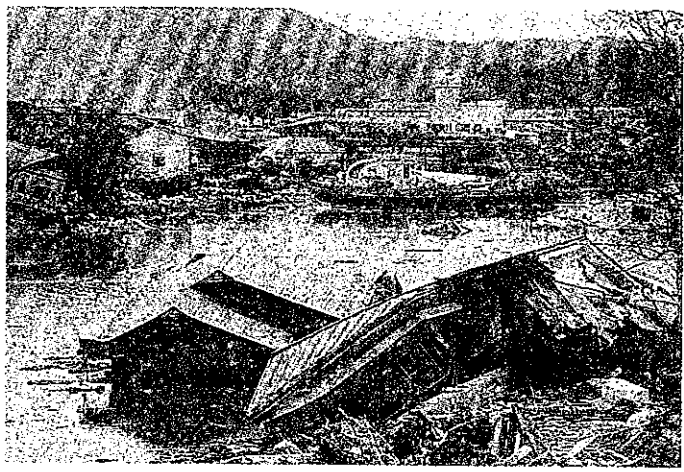
とを繰り返すだけ。
 「…で〇人死…」
 市街地は壊滅状
 態…。断片的な情
 報が、逆に身を寄せ
 合う避難者の不安感
 夜が明けた。眼前に

をあげる。
 内湾で燃え広がっ
 た炎は、津波で何度
 もいったりきたりす
 る大川のがれきを夜
 通し不気味に照らし
 ていた。
 飲まず食わずの一
 夜が明けた。眼前に

広がる現実を信じら
 れないまま、まだ完
 全に水がひかない外
 に出た。重油におお
 いが鼻をつく。がれ
 きとへどろで歩くの
 もままならない。社
 に戻ると、地震から
 丸一日が経っていた。

平成23年3月11日午後2時46分

東日本大震災の証言



大川に浮かぶ民家や油槽船 (3月12日午前11時ごろ)